

令和 7 年度 第 3 回 草津市基盤施設指定管理者選定評価委員会議事概要

開催年月日	令和 7 年 1 0 月 1 7 日（金）	開催時間	午後 1 時から午後 3 時まで
出席者	委員 5 名、施設担当職員 3 名、事務局 5 名、申請者		
傍聴者	0 名		
付議事項	指定管理者の候補者の選定に係る意見を求めることについて 「草津川跡地公園（区画 2・区画 5）」の指定管理者の候補者の選定		
1 開会			
2 委員・事務局の紹介			
3 「草津川跡地公園（区画 2・区画 5）」の指定管理者の候補者の選定【公募：1 者】			
・担当課より施設概要等説明			
・申請者プレゼンテーション（草津川跡地公園マネジメント・パートナーズ）			
・質疑応答			
・審査・採決（非公開）			
4 事務連絡			
5 閉会			

◆令和 8 年 3 月 3 1 日で指定期間満了を迎える施設において、申請のあった団体＜草津川跡地公園  
園マネジメント・パートナーズ（以下「草津川パートナーズ」という。）＞が指定管理者として  
適任かどうか審議を行った。

草津市跡地公園（区画 2・区画 5）

## 1 担当課説明および質疑応答

施設概要や評価のポイント等について説明

◆担当課説明：略

（以下 質疑応答）

＜委員（以下「委」という。）＞：来場者数について市としてこれぐらい来てほしいという指標  
はあるのか？

＜担当課（以下「担」という。）＞：区間 5 については中心市街地活性化基本計画中に、目標  
人数として 30 万人を設定していた。現在のところ、それ以上の来場者数が来ているが、昨年、  
一昨年と比べると少し減少している。区間 2 については目標値を設定していない状況である。

＜委＞：来園者のカウント方法はどうしているのか？

＜担＞：今、指定管理者が日常の管理業務の中で来園数のカウントを行っており、カウントの方  
法については、指定管理者が通信事業者と契約をし、スマホの位置情報からおおむねの人数を  
把握し、その人数から推定の来園人数を計算しているという状況である。位置情報アプリを使用  
することで、人数は 24 時間把握できるが、20 歳以上の大人の人数しか把握できない。

学生の人数はわからないため、人数比率で算出してもらっている。

＜委＞：来園者については区間 5 が減少しているのか？

＜担＞：区間 5 が減少しており、区間 2 の方も少し減少している。区間 5 が減った理由としては  
昨年度に区間の隣の JR 琵琶湖線の上部で工事を行っていた。その工事の作業ヤードの関係で、  
区間 5 の駐車場を一部閉鎖していた。そのため、来園者が駐車できる台数が減少し、結果とし  
て来園者が減ってしまったという分析を行っている。

＜委＞：今年度の来園者の見込みについて教えてほしい。

＜担＞：8 月までの状況を見てみると、昨年度よりも毎月多い人がお越しにいただいている。

このままいけば、昨年度以上の来園者数になるのではないかと推測している。

＜委＞：前は事業体が 3 つだったが、今回どこが追加となったのか？

＜担＞：「株式会社 E-DESIGN」「京阪園芸株式会社」「株式会社 studio-L」だったのが「株式会社  
E-DESIGN」「西武造園株式会社」「株式会社 studio-L」「草津まちづくり株式会社」の 4 社とな  
った。

＜委＞：「草津まちづくり株式会社」が「草津川跡地公園マネジメント・パートナーズ」に入っ  
たのはなぜか？

＜担＞：今回の募集要項の中で、「草津まちづくり株式会社」との連携を強化するようにという文  
言が書かれている。草津駅周辺の中心市街地の活性化を本市として目指している姿をまとめた  
中心市街地活性化基本計画や草津駅周辺エリア未来ビジョンという計画がある。その取り組み  
の中心を担っているのが「草津まちづくり株式会社」である。その中で de 愛広場（区間 5）に  
関連するエリアが含まれており、核となる施設という位置づけがされている。

このような背景から、草津まちづくり株式会社との連携の強化が求められている。

＜委＞：あらかじめ「草津まちづくり株式会社」の連携強化を想定していたのか？

<担>：指定管理の開始時から、まちづくり会社との連携を促す計画が常に存在していたため、連携するよという文言は最初から記載させてもらっている。さらに賑わいを生み出し、駅周辺の広い面的なところを考えると、この草津川跡地区間を中心に明確な効果を期待したいところであり、市としても期待している。そのため、さらなる連携を求める文言を記載させてもらったという経過である。

<委員>：連携を求める文言を受けて「草津まちづくり株式会社」が、「草津川跡地公園マネジメント・パートナーズ」の構成団体となったということか？

<担>：そのように認識しているが、申請者に確認をいただきたい。

## 2 申請者によるプレゼンテーションおよび質疑応答

### ◆草津川跡地公園マネジメント・パートナーズによる申請内容の説明：略

(以下 質疑応答)

<委>：今回、「草津まちづくり株式会社」が「草津川跡地公園マネジメント・パートナーズ」の構成団体として加わったが、「草津まちづくり株式会社」に、公園での取り組みを街中へ展開し、公園と街が一体となった統合的なまちづくりへの役割を委ねるということか？

<草津川パートナーズ>：「草津まちづくり株式会社」に委ねるということではない。今まで「草津まちづくり株式会社」は、事業者部会の事業者として区間5を運営いただいていた。その中で公園とも連携しながら進めてきたが、公園内の活動に一部協力していただくとか、地元企業の中心市街地活性化のイベントに少し参画するといったことで、緊密な連携には至っていないというのが実情であった。

街中が抱える課題について話し合う中で、人材不足やリソースの限界といった問題が浮き彫りになった。一方で、私たちが関わる公園内では、様々なリソースが生み出され、良い流れができて始めている。この状況を活かして、公園での取り組みを街中へ展開し、公園と街が一体となった統合的なまちづくりを目指したいと思い、パートナーを組むこととした。

<委>：資料で、区間5に関しては周りにマンションが多いため、マンション住人にも公園を利用してもらうことが挙げられている。また、草津市のまちづくりに参入してもらうような働きかけを管理会社に行うと書いてあったが、具体的にどうやって実施するのか？

<草津川パートナーズ>：説明の中でも区間ごとに来場者のニーズや特性が全く異なることをお話したが、区間5には本当にマンションが多い。市民活動に参加している「緑の活動」に参加いただく方も、マンションにお住まいの方が非常に多い。その中で、イベントに関する直接の連携もあり、情報発信する際にはマンションにチラシを貼らせていただくなどの連携が考えられる。くさねっこカレンダーなども配布させてもらうことを検討しており、そういった連携は公園側が行っていく。「草津まちづくり株式会社」にはそういったところまで委ねるつもりはない。

<委>：今回、京阪園芸から西武造園株式会社が変わるところがポイントになってくると思うが、どのように変わっていくのか？

また、ローズガーデンはどのようにするつもりか。

<草津川パートナーズ>：今回、造園を担う構成企業を西武造園株式会社に変更した。私たちもこの公園の緑を、ますます賑わいの一つの要素として、「このために来てくれる」という魅力的な緑にしていかなければならないと常々思っている。今回、西武造園株式会社の方と対話する中で、提案型で今の緑をより良くしていける力を持っている会社ということで、パートナーを

組んでいる。

次に、ローズガーデンについてだが、もちろん京阪園芸も力を入れていたが、西武造園株式会社もバラ園を管理するノウハウを持っている。また、ローズガーデンの市民参加も、徐々に増えてきており、最近では自主活動まで行ってくれるようになった。そのため、講習を通じて市民にノウハウを蓄積しながら管理していければと思っている。

私たちは、基本的に直営部隊を使った管理運営、維持管理を行っており、きめ細やかな維持管理が草津川跡地公園ではできると考えている。また、「草津市立 水生植物公園みずの森」にも参画させていただいているが、そこでも草花や緑のノウハウを持っており、近くでも連携できるのではないかと考えている。

さらに、交通に関することも弊社の他の公園で行っているため、継続しつつより良い方向性に導いていければと思っている。

<委>：来園者が伸び悩んでいるものの、収入が増加する予定とのことだがどう考えているか？

<草津川パートナーズ>：駐車場に関する課題は非常に大きく受け止めている。現状、大きなイベントがあると駅に近い西側の駐車場が満杯になってしまい、その結果、他の来園者が利用しづらいという課題が浮かび上がっている。しかし、東側の駐車場にはまだ比較的余裕があるため、東側の駐車場を上手に使ってもらうための何らかの仕組みが必要である。例えば、周辺の企業と連携して東側の駐車場を利用したサービスを提供することや、東側にさらに魅力的な見どころを設けて緑を美しく整えることで、来園者が東側にも足を運ぶように工夫することが考えられる。このように東西の駐車場利用の平準化が一つのチャンスだと思っている。また、朝早い時間や夜遅い時間に、近隣の方に迷惑にならないような小さなイベントを開催することで、駐車場が満杯にならない時間帯にも駐車場利用が増えるのではないかと考えている。そういったことを含めて、5カ年計画で少しずつ駐車場料金の収入を増やしていく方針で進めている。

<委>：くさつ桜ファン倶楽部というのがあるとのことだが、会員の集め方と目標数について教えてほしい。

<草津川パートナーズ>：通常、市民活動としてガーデニングサークルのような組織体が存在するが、決まった会議やさまざまなルールがあることで、そういったものが嫌だという方も実際にはいる。そうした方々の中には、緑が好きで、時間に縛られず自分のペースで活動したいという人もいる。そこで、散歩をしている方々に桜を見ながら「毛虫がついているよ」とか「変なキノコが生えているよ」といった情報を報告してもらうような活動を行っている。この活動は、日常の中で桜を楽しむことを趣旨としており、実際には目標人数も定めておらず、絶対的なルールも定めていない。これは非常にふんわりとした市民参加のあり方であり、こうした形もあるのではないかと思います、現在始めたところである。したがって、目標人数は現在定めていない。それでも、参加者が増えれば、より多くの人々に見守ってもらえるものである。桜に関するイベントとして、桜を使った染め物をするワークショップを行いながら、その際に「市の桜は素敵だね。みんなで守っていこう」という呼びかけを通じて、少しずつ会員登録を増やしていくことを目指している。

<委>：ファンクラブ会員を募るようなことはしないということか？

<草津川パートナーズ>：募らないというわけではなく、目標値は定めない。

<委>：目標値はないとのことだが、イベント等を行うのであれば、ある程度人数設定は必要と思うがどうか？

<草津川パートナーズ>：始めたばかりの事業なので、今後検討していきたいと思う。

＜委＞：くさねっこ倶楽部のくさねっこカレンダーのリーフレットを出されていると思うが、SNSやインスタではなく紙媒体で出しているのには何か戦略があるのか？

＜草津川パートナーズ＞：紙媒体でカレンダーを作っているのは、ふらっと来られた方が目にしたカレンダーを通じて、「今日は公園でこんなプログラムをやっている」と知っていただき、参加してもらう機会が結構あるからである。やはり、SNSの場合はそれを知りたくて見に行くという働きかけしかできないが、紙で置いておくのと目に入ることで、見ていただける効果があり、あえて紙でカレンダーを作っている。マンションにも配布させていただいたり、近隣の公共施設やお店にも置いていただけたりするようにご協力をお願いしている状況である。

＜委＞：公共施設にも設置しているのか？

＜草津川パートナーズ＞：市を通じて設置している。

＜委＞：設置するのは、周辺の店舗等か？

＜草津川パートナーズ＞：この取り組みを行っている市民の方からの提案で、実際お店に行って設置を依頼している例もある。

＜委＞：事故発生時と緊急時の対応策について、例えば熱中症や高齢者の多い環境での転倒などがあった場合、その後の対応について、こういったところが課題だったという点を教えてほしい。

＜草津川パートナーズ＞：事故発生時の通報経過や倒れられた場合には、まず速やかに複数人で現場に向かうことを徹底している。その中で状況に応じて、すぐに救急車を呼ぶなどの対応を行い、市の担当課にも連絡をするという対処をしている。

＜委＞：今後の草津川の区間6が整備される状況になると思うが、そのあたりで連携について考えていることがあれば教えてほしい。

＜草津川パートナーズ＞：今後、市としてどのような管理方針を取るのか具体的にはまだ不透明な状況にあるが、包括的に全体を管理することで、コストの抑制が図れるのではないかと考えている。

### 3 採決

各委員による採点の結果、最低基準点を上回っており、出席委員全員の賛成が得られたことから、指定管理者として「草津川跡地公園マネジメント・パートナーズ」を候補者とすることが適当であるとの結論に至った。